

ミラトク 変革への課題解決を目指して

# SDGsと新エネルギーについて 理解促進と広報を考える

住宅設備アシスト株式会社  
×  
四国大学グリーンPJチーム

2022年度活動報告書 2023年2月

# 1. 住宅設備アシストプロジェクト 取組み課題

このプロジェクトは、持続可能な地域づくりの大きな柱であり、毎日の生活に欠かすことができない「電気」の“つくり方”“使い方”と改めて向かい合い、「スイッチを入れれば、すぐ電気が供給される」ことの当たり前を見直すことから始まりました。毎日の様々な生活シーンをイメージする時、その便利さの根底には多くの場合「電気」が必要となっています。けれども、石油や天然ガスなど火力発電のための化石燃料をほとんど産出できない日本にあって、世界情勢や自然環境の急激な変化によってエネルギー資源を海外から輸入できない事態に陥った場合、「電気」に頼る私たちの生活はたちまち維持することが難しくなることが予想されます。

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



今後さらに高齢化、単身世帯の増加により、地域社会を支えるサービスが求められますが、地域が持つヒト・モノ・情報・お金、そしてエネルギーを、より身近なところでつくり使うことが、SDGsのGOAL7「全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」ことにつながると考えます。

今年度は、SDGsや再生可能エネルギーの認知度に関する意識調査を実施することにより、次のステップとしてどのような内容の周知広報に焦点を当てるかを検討したいと思います。徳島県ミラトクプロジェクトを通して、このような実践型学びの機会を得ることができ、住宅設備アシスト株式会社様をはじめご関係の皆様方に心から感謝を申し上げます。

## 課題と意思の共有

### 住宅設備アシスト株式会社



徳島県内の方々に、環境問題や新エネルギーに興味を持って頂くことで、SDGsや地域の持続可能なエネルギー需給への関心を高めるための広報をしたい！

### 四国大学グリーンプロジェクトチーム



地域活性化に関する授業での学びを活かし、環境や教育、地域連携などの分野で学生の視点から地域連携活動に参加したい！



## 2. Future Session の開催と到達目標

今年度は、2回のFuture Session (FS) を開催しました。

FSは、創造的な対話から未来に向けた課題解決を目指して、新しいアイデアや連携の形を話し合う場です。ここでは実現不可能な空想や顔の見えない“誰か”に頼るのではなく、メンバー一人一人が加課題を“自分ごと”として考え、「**今から ここから 私から**」できることを言葉にすることが大切だとの言葉が印象的でした。

### 第1回 Future Session (2022年12月5日9時～10時 四国大学)

第1回FSでは、企業側が抱える課題について学生メンバーが直接お話を伺うことで、今後の方向性を考えることを目的としました。企業側からは、特に新築住宅を購入する際のクリーンエネルギーの導入支援や、電力自由化と選択肢、現在実施されている様々なサービスなどについて説明がありました。

そこで、キーワードとなったのが「**知る**」ことです。

気候変動が進むことへの危機感や、化石燃料に依存するエネルギーについては「このままではいけない」という意識を持つ人は多いと思いますが、自分自身の生活に新エネルギーを導入することへの漠然としたネガティブなイメージを変えるためには、信頼できる情報が必要だとの意見が出ました。

消費者が新エネルギーについての情報を入手し、正しく**知る**前段階として、信頼できる情報を発信する取組みが必要です。そのために、まず消費者の意識についてアンケート調査を実施することを提案しました。



ミラトクHP掲載  
第1回FSの様子

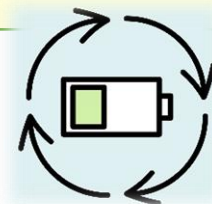
### 第2回 Future Session (2023年1月23日16時～ オンラインMTG)

第2回FSでは、アンケート調査の実施報告と今年度の活動の到達目標を決めました。

「信頼できる情報を発信」という視点をもとに、到達目標を次のように設定しました。

#### 【到達目標】

- ①徳島県内の消費者を対象に新エネルギーについての意識調査を実施する
- ②調査の結果を分析し、新エネルギーの普及に関する課題を発見する



# 3. 県内消費者へのアンケート調査

## (1) 調査の概要

調査名：SDGsと新エネルギーについての認知度調査（四国大学短期大学部 加渡研究室）

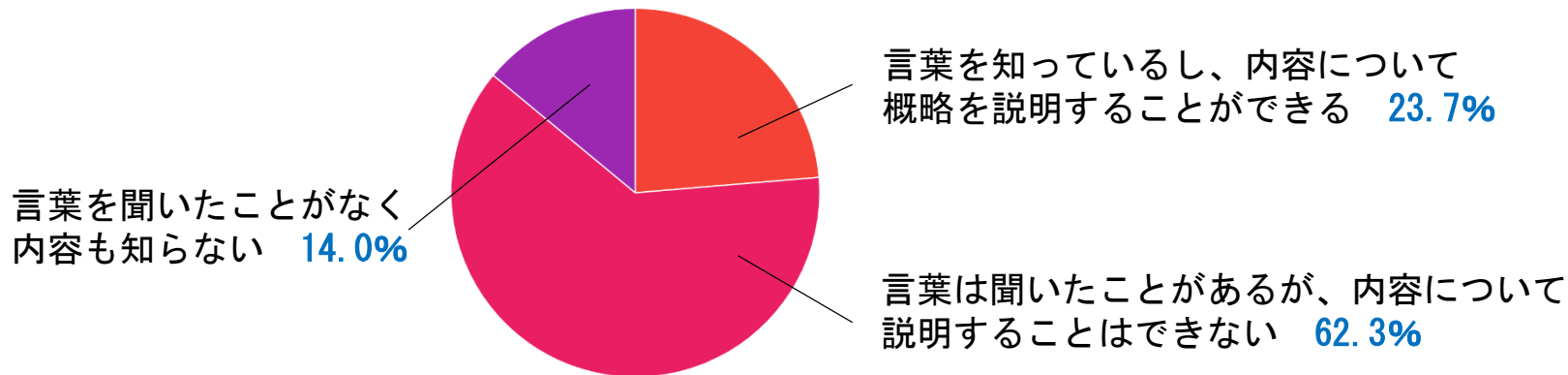
実施時期：2023年1月23日～1月24日

調査対象：徳島県内在住者 20～80歳の男女300人

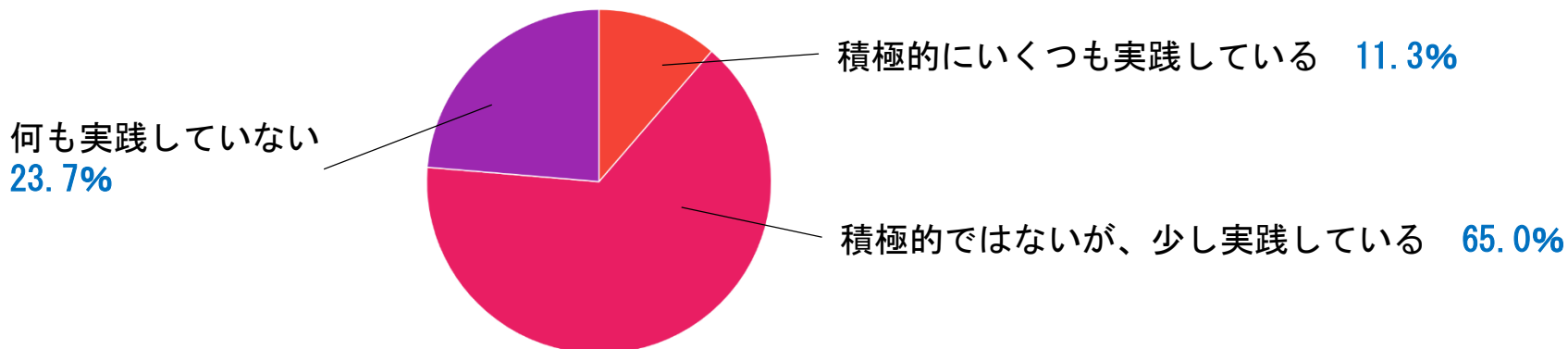
調査方法：インターネットによる調査（Freeasy）

## (2) 調査結果

Q1 あなたはSDGs（国連持続可能な開発目標）を知っていますか？



Q2 あなたは日常生活の中で、環境に配慮した行動を何か一つでも実践していますか？



	Q1言葉も内容も知っており、説明ができる ★2	Q1言葉は知っているが、内容を説明できない	Q1言葉も内容も知らない
Q2積極的にいくつも実践	13	19	2
Q2積極的ではないが、少し実践している	55	125 ★1	15
Q3何も実践していない ★3	3	43	25

★1 もっとも多いサンプル（125人）は、

SDGsについて説明はできないが言葉を知っている＋環境保全活動に積極的ではないが少し実践している

★2 SDGsについて言葉も内容も知っている回答者（71人）については、

77%（55人）が「積極的ではないが少し実践している」と答え、積極的な実践者（13人）は18%に過ぎない

★3 環境保全活動について何も実践していない回答者（71人）については、

60.5%（43人）がSDGsについて言葉のみを知っており、35%（25人）は言葉も内容も知らない

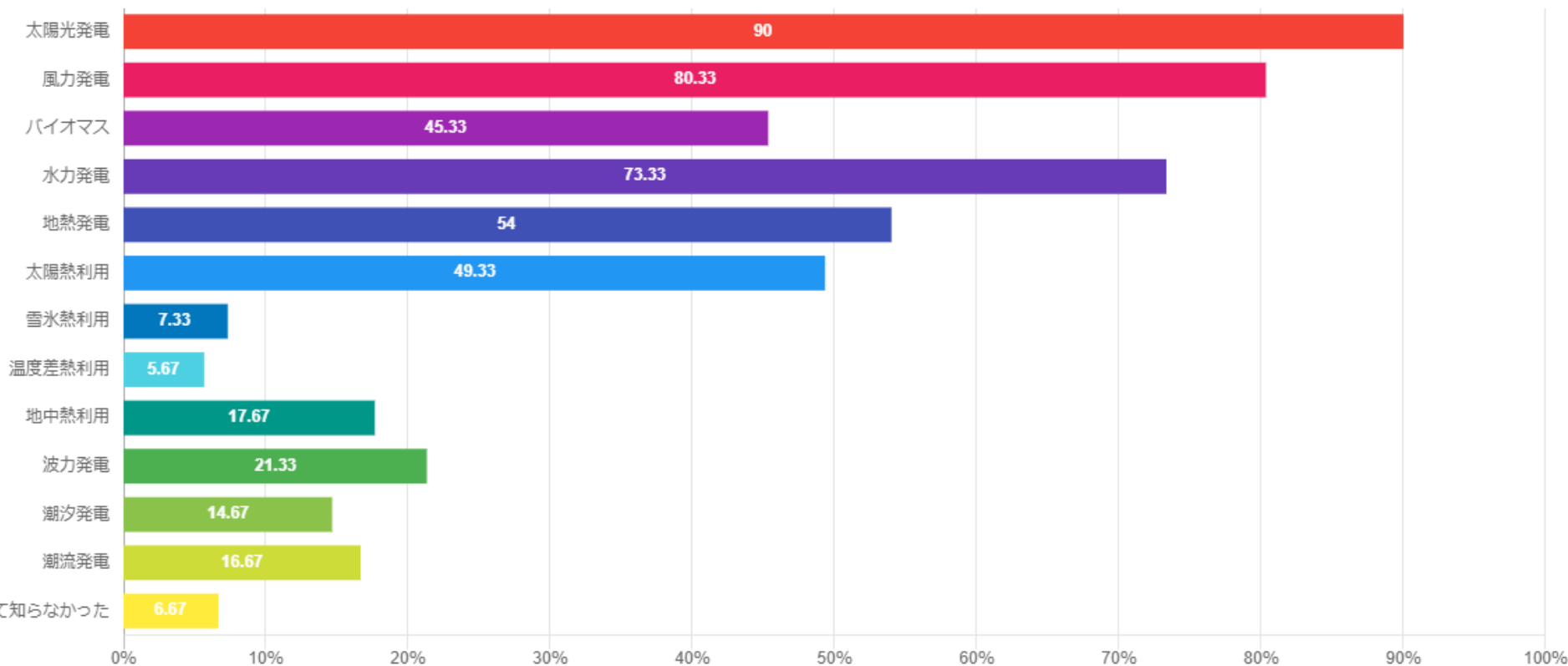


SDGsについての認知や理解度が高いからと言って、必ずしも環境保全活動を積極的に実践しているとは言い難く、また、環境保全活動に取り組んでいない人の多くが、SDGsについて認知していないとも言えない状況にあります。

けれども、環境配慮した実践の一步を踏み出すためには、まずSDGsについて言葉を認知することが動機づけとなると考えられます。SDGsについて言葉の難解さや“他人ごと”というイメージを払拭し、様々な機会や場所を使って、日常生活の中でSDGsに関する情報を目にする、耳にする、接する経験を増やすことが重要ではないでしょうか。そして、認知や理解が進むことで、環境配慮型の実践者の増加につなげたいと思います。



Q3 次にあげる「再生可能エネルギー」についての言葉の内、少しでも内容を知っているものを選んでください。（複数回答）



認知度について 40%を超えているもの

- 1位 太陽光発電 (90%)
- 2位 風力発電 (80.3%)
- 3位 水力発電 (73.3%)
- 4位 地熱発電 (54%)
- 5位 太陽熱利用 (49.3%)
- 6位 バイオマス (45.3%)

Q1とQ3のクロス集計

「太陽光発電」についての認知度

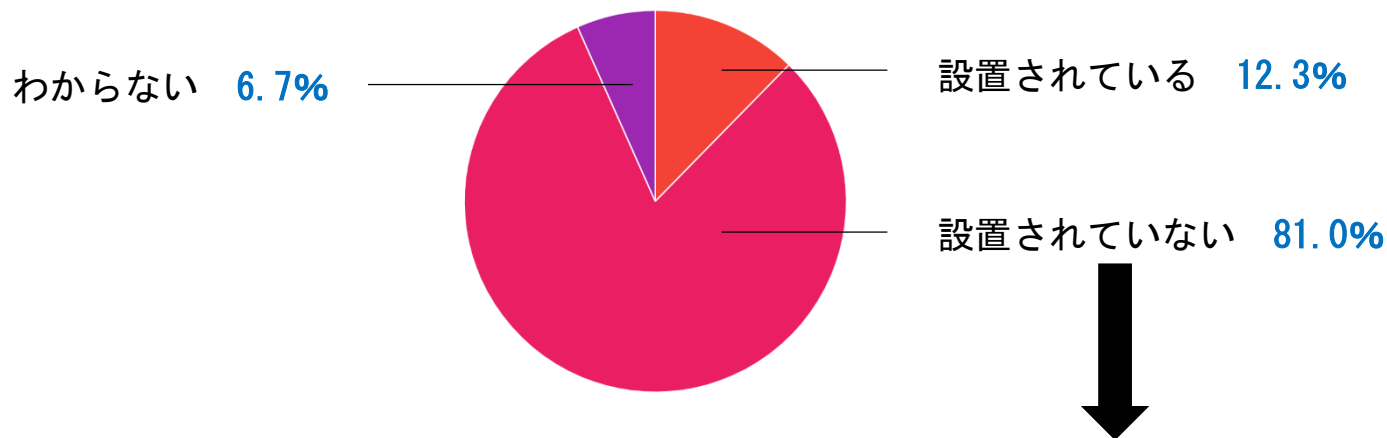
- Q1でSDGsを説明できると答えた人は95.8%
- Q1でSDGsを言葉だけ知っていると答えた人は90.4%
- Q1でSDGsについて知らないと答えた人は78.6%



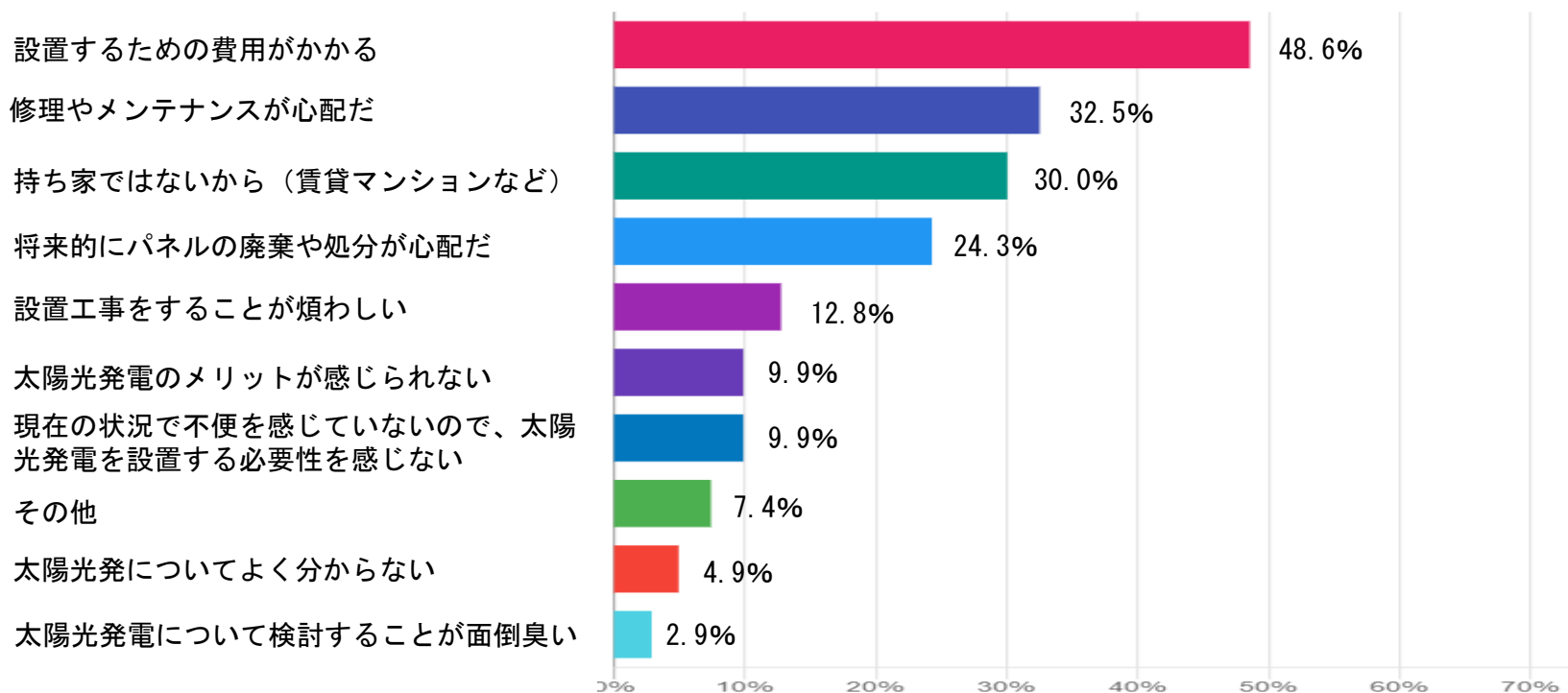
SDGsについての認知度が高いほど、太陽光発電についても認知度が高い傾向にある



#### Q4 あなたの家には（マンションやアパートも含めて）、太陽光発電の設備が設置されていますか？



#### Q5 Q4で「設置していない」と答えた場合、その理由にあてはまるもの（複数回答）



## 4. SDGsや環境に配慮した行動のための情報発信について

調査の結果から、消費者に対して信頼できる情報を発信し、SDGsや環境保全活動についての認知を理解を促進するための課題を考えます。

### 【課題と提案】

①SDGsについて、「言葉を聞いたことが無い」割合は減少しているものの、まだ「言葉は知っているが内容を説明できない」割合が最も高くなっています。消費者がSDGsについて正しく知るためには、まず自分の言葉でSDGsを語る事が大切ですが、まだそこには至っていない消費者が多くいます。「知っている」から「説明することができる」消費者を増やすことに焦点を当てなければなりません。

②小学校・中学校・高校や大学では、授業や課外活動を通してSDGsについて学ぶ機会がありますが、年齢が上がるにつれて学びの機会は少なくなります。仕事上だけではなく、世代を超えてSDGsの学びの場を作ることが必要です。

③マイバッグやマイボトルの活用、ゴミの分別の徹底、環境配慮型商品の積極的購入、食品ロスの削減など、日常生活の中でのエシカル行動が、その他の環境保全の行動実践へと結びつくことを発信することが大切だと考えます。



2022. 11. 3  
四国大学GXフォーラムと  
脱炭素まちづくりゲーム

カーボンニュートラルの実現のためには、地域の様々な主体との連携とコミュニケーションが欠かせません



注) 今回実施した「SDGsと新エネルギーについての認知度調査」は、サンプル数も少なく世代や住環境に配慮したサンプリングではないことから、この結果をもって徳島県の傾向を言及することはできません。